

平成 3 1 年度使用  
中学校用（道徳）教科用図書  
についての調査審議結果（⑦）

# 道 徳 8 種

発行者の番号略称	書 名
2 東書	新しい道徳
1 1 学図	輝け 未来 中学校道徳
1 7 教出	中学道徳 とびだそう未来へ
3 8 光村	中学道徳 きみがいちばんひかるとき
1 1 6 日文	中学道徳 あすを生きる
2 2 4 学研	中学生の道徳 明日への扉
2 3 2 廣あかつき	中学生の道徳 自分を見つめる 自分を考える 自分をのばす
2 3 3 日科	道徳 中学校 生き方から学ぶ 生き方をみつめる 生き方を創造する

# 平成31年度使用教科用図書審議結果

## 道徳

発行者の番号 略称	書名	編修の基本方針	学習指導要領との関連	内容	構成・分量・装丁	表記・表現
2 東 書	新しい道徳1 新しい道徳2 新しい道徳3	3つの基本方針を掲げて編修されている。 ・「人間としての生き方を深く考えることができる教科書」では、内容項目ごとにさまざまなジャンルの教材を用意している。ユニットは、いじめ問題対応ユニットと生命尊重ユニットの2種類がある。また、教材ごとに、問題解決的な学習の流れを提示している。 ・「見通しと振り返りを設定し、生徒が主体的に学習に取り組むことができる教科書」では、巻頭にオリエンテーションと教材ごとに「つぶやき」コーナーを用意している。巻末に切り取り式の自己評価用紙を収録している。 ・「考え議論することを通して、確かな道徳性を育むことができる教科書」では、各教材冒頭に主題を明示している。また、各学年に2か所、役割演技を主体とした活動を用意している。巻末付録にホワイトボード用紙を収録している。	中学校学習指導要領 特別の教科 道徳編に示された内容項目については、各学年において全てを取りあげている。 物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる配慮をしている。	【考え、議論する道徳に関すること】 教材を通してどのようなことについて考えるのかを教材の冒頭に示している。各教材末尾に、「考えてみよう！」があり、中心発問と、自己を見つめる設問を示している。話し合い活動や思考の質を高めるために、ホワイトボード用紙などの授業支援ツールを用意している。 【発達段階に関すること】 重点項目の設定において、1年は郷土の学習、2年は国の学習、3年は国際理解の学習をそれぞれで重点項目にするなど、段階を経て考える範囲が広がるように配慮している。 【いじめ防止に関すること】 1つのテーマで3つの教材を組み合わせてユニットをつくることでいじめの問題を多面的・多角的に見られるようにしている。 【現代的な課題に関すること】 情報モラル、生命尊重、食育、消費者教育、防災教育、福祉に関する教育、法教育、伝統文化教育、国際理解教育、キャリア教育、社会の持続可能な発展を掲載している。 【言語活動に関すること】 各学年の巻頭に「話し合いの手引き」を配置し、話し合い活動を促すようにしている。教材末の設問ごとに書き込み欄を設置し、自分の考えたことや友達のを考えなどを書き込めるようにしている。 【家庭や地域との連携に関すること】 読書で広げる道徳のページは、家庭での話し合いのきっかけにすることもできる。家族や地域社会を扱った教材を配置している。 【かわさき教育プランに関すること】 道徳の内容の視点B、Cの教材が多く、共生・協働の精神を育みやすいと思われる。内容項目A-(1)の教材によって、自主・自立についても育むことができる。	【学習の進め方に関すること】 巻頭に「道徳の授業はこんな時間に」があり、ショートストーリーを読んでも、道徳の授業の流れを体験できるようになっている。 同じく巻頭に「話し合いの手引き」があり、話し合いの順序やルールを具体的に示している。 【内容項目に関すること(指導の重点化を含む)】 「いじめ問題」と「生命尊重」は、複数教材を組み合わせたユニット構成をして重点的に扱っている。 全22の内容項目はすべて扱われており、設定された13の重点項目については繰り返し学習できるよう配慮されている。 【教材の分量に関すること】 各学年30教材(35時間扱い)が用意され、付録で5教材が用意されている。 また読み物だけでなく、様々な教材が掲載されている。 【各教科等との関連に関すること】 教材の冒頭で各教科との関連を示したり、巻末にテーマごとに教材を分類したりして、各教科等との関連が図れるようにしている。 【記入や記録に関すること】 各教材中に「つぶやき」というメモ欄が挿入され、その時々々の生徒の心の動きを記入できるようになっている。 巻末に切り取り式の自己評価用紙がある。学期ごとに生徒が自己評価を行い、提出できるようになっている。 【判型に関すること】 AB判。軽量な用紙を使用することで、重量的な負担は軽減されている。	【文字に関すること(大きさ、字間、行間、書体、漢字、仮名遣い等)】 一般的な書体よりも少し太いユニバーサルデザインフォントを採用している。漢字に読み仮名がふられているものもあり、内容理解の手助けになる。 【挿絵や写真に関すること】 感動・畏敬の念を扱う教材については、写真を大きく掲載し、大自然の迫力が伝わるよう工夫されている。 【内容項目や主題の示し方】 各教材の冒頭には、道徳の内容の4つの視点のマークと考えるテーマを示している。 【読みやすさ】 中学生にとって難しい表現は避けて、なるべくわかりやすい表現を用いるようにしている。漫画教材を取りあげ、親しみやすくするために口語体で表現している。 【ユニバーサルデザイン・特別支援教育に関すること】 色覚特性の専門家の協力を得て、全ページにわたって配色や色に関わる表現を点検している。 【マークやキャラクターに関すること】 4つの視点各教材の冒頭右上、各教科との関連が各教材の冒頭右下にマークで示されている。生徒二人と先生、案内役のキャラクターを要所に配置し、学習の流れを案内するとともに、興味・関心を引き出す工夫がされている。 【神奈川県に関連すること】 3年の「郷土のことを考える」では、相模人形芝居が取りあげられている。
11 学 図	輝け 未来 中学校道徳 1年 輝け 未来 中学校道徳 2年 輝け 未来 中学校道徳 3年	4つのつながりをもとに、編修されている。 ・『「命」のつながりを考える』では、生命のもつ神秘性・連続性・有限性、生命に対する畏敬の念など、かけがえない生命の尊重を重点項目ととらえ、各学年複数の感動を覚える教材を用意している。 ・『「人、社会」とのつながりを考える』では、家族・親類や友達との関係、また学級・学校、地域の中で生きていることを理解し、集団や社会の一員として、将来社会を築いていく一人として、自分の考えを深められる教材を開発している。 ・『「世界、文化」とのつながりを考える』では、時間の縦軸、空間の横軸の中で、今ある自分、めざす自分を考えられるよう、我が国や各地の「伝統と文化」「先人の伝記」を中心に教材を開発している。 ・『「自然、環境」とのつながりを考える』では、広い宇宙の中の、豊かな地球、自然の恵み、限られた資源と共に生きている私たちであることを深く理解し、それらを守っていかうとする心と態度を育てる教材を用意している。	中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編に示された目標に則り、全ての内容項目の指導に最適な題材を用意している。 中学校学習指導要領解説 総則編に示された、「指導内容の重点化への配慮」を受けて、重点化を図る内容項目については複数教材を配置している。	【考え、議論する道徳に関すること】 各教材の末尾に「学びに向かうために」という項目を記載し、発問を掲載している。特に考え議論する場面には「意見交換」と明示している。自我関与が中心の学習、問題解決的な学習、体験的な学習の要素を取り入れ、学習展開を設定している。 【発達段階に関すること】 中学生の発達段階を考慮し、学年を追って発問内容や「心の扉」の記載内容を深化させていく配慮をしている。 【いじめ防止に関すること】 いじめの問題を扱う教材については、直接考える教材、いじめにつながる可能性がある内容を取りあげた間接的な教材を設けている。 【現代的な課題に関すること】 情報モラル、生命尊重、防災教育、福祉に関する教育、社会参画に関する教育、伝統文化教育、国際理解教育、キャリア教育、社会の持続可能な発展を掲載している。 【言語活動に関すること】 資料末尾の「学びに向かうために」の中で、意見交換のポイントが挙げられ、言語活動充実への配慮がなされている。学びの記録の欄を設け、自分の考えや友達のを考えを記入できるようにしている。 【家庭や地域との連携に関すること】 巻末に保護者に向けて、本教科書が目指すことを説明し、どのような内容を学習するかを示している。また、「学びの記録」のページにより、生徒の学習の振り返りが保護者にも伝わるよう配慮がなされている。 【かわさき教育プランに関すること】 内容項目の他に深く考えていきたい重要な現代的課題を10示しているが、その中の3つ「共に生きる」「社会の中で」「社会を生きぬく」はかわさき教育プランの理念と関連している。	【学習の進め方に関すること】 教科書冒頭の「道徳の学習を始めよう！」で学習に向かうための手立てが記載されている。 全教材に「学びに向かうために」があり、どのような考えをノートにまとめればよいか示されている。 【内容項目に関すること(指導の重点化を含む)】 「中学校学習指導要領解説 総則編」に示された指導内容の重点化に掲げられた内容について、複数の教材を取りあげている。 【教材の分量に関すること】 年間35時間分の教材が用意されている。 読み物だけでなく、様々な資料が掲載されている。 【各教科等との関連に関すること】 各教科の学習や、学校生活における部活動や行事と関連付けながら、その中にある道徳的価値について考えることができる教材を設置している。 【記入や記録に関すること】 「心の扉」のページでは、内容項目に関わる振り返りを記入する欄が設けられている。 夏休み、冬休みを境として3つの期間を区切り、それぞれの教材での学習後の書き込みをするページがある。 巻末に一年間の振り返りを記入するページがある。 【判型に関すること】 AB判の横に広いサイズで、文字や絵などが視認しやすいように工夫されている。	【文字に関すること(大きさ、字間、行間、書体、漢字、仮名遣い等)】 ユニバーサルデザインフォントを使い、認識性に対する配慮をしている。 読み仮名が振られている漢字もある。 【挿絵や写真に関すること】 大きめの挿絵や写真が多く、教材ごとにその情景をイメージしやすくなるように工夫されている。 【内容項目や主題の示し方】 教材の冒頭に内容項目が示されている。道徳の内容の視点ごとにページが色分けされている。 教材のねらいが題名の横に示されている。 【読みやすさ】 右ページから始まり、見開きページに挿絵や写真が配置され、読みやすくなるよう配慮されている。 【ユニバーサルデザイン・特別支援教育に関すること】 カラーユニバーサルデザインの観点から、色使いやマーク類などの用い方に配慮している。 【マークやキャラクターに関すること】 現代的課題などを10のポイントマークで示している。 各教材の冒頭にこのマークを示している。 内容項目を4つのマークで示し、各教材の冒頭にそのマークを提示している。 【神奈川県に関連すること】 1年生では、「生き続ける遺産 深良用水」の教材の中で、富士山の話と関わって芦ノ湖が扱われている。

発行者の番号 略称	書名	編修の基本方針	学習指導要領との関連	内容	構成・分量・装丁	表記・表現
17 教出	中学道徳1 とびだそう 未来へ 中学道徳2 とびだそう 未来へ 中学道徳3 とびだそう 未来へ	4つの視点を編修されている。 ・「主体的・対話的な学びを通して、豊かな道徳性を育てる」では、教材の冒頭には「導入」の文章を設け、学習のねらいを明確にして教材内容に入ることができるようにしている。教材の末尾には自分にひきつけて考えたり、多面的・多角的に考えたりする際の助けとなる発問を示している。また、生徒が自分自身の成長を感じたり、課題等を見つけたりしながら学習することができるようにしている。 ・「次の時代を切り拓いていく力を養う」では、現代的な課題に関わる教材を積極的に取り上げている。また、深く考えさせたい重点テーマを設けている。 ・「人の生き方に学びながら、自分自身をみがき高めていく意欲を培う」では、今日の社会をつくりあげてきた人々の思いや努力、道を切り拓いてきた人々の生き方や考え方に学びながら、自分自身を高めようとするようにしている。 ・「平和を愛し、伝統や文化を尊重する心を育てる」では、国や郷土を愛する心を育て、日本人としての誇りをもって、社会の形成に寄与する態度を養うことができるようにしている。	各教材は、学習指導要領の4つの視点のどこに該当するかを、色で区別して表現されている。22の内容項目はすべて取り扱われている。 道徳教育の要となる道徳科として、学校行事や体験活動等との連携を図りやすいような教材の配列をしている。	【考え、議論する道徳に関すること】 何をどのように考え話し合っていくのかが分かるよう、各教材最終ページに「学びの道しるべ」として発問が記載されている。問題解決的な学習、道徳的行為に関する体験的な学習など、多様な学習方法を取り入れられる教材を掲載している。 【発達段階に関すること】 生徒にとって身近な設定の教材を、学年に応じて変化をつけながら、3学年通してシリーズで掲載している。1年生では自分自身に関することの教材を手厚く扱い、学年があがるにつれて人との関わり、集団や社会との関わり教材に力点を置いている。 【いじめ防止に関すること】 いじめについて直接的に扱う教材と間接的に扱う教材を設けている。いじめを直接扱う教材は特定の指導時期に集中しないように配置している。 【現代的な課題に関すること】 情報モラル、生命尊重、防災教育、キャリア教育、社会参画に関する教育、伝統文化教育、国際理解教育、社会の持続可能な発展を掲載している。 【言語活動に関すること】 各教材の最後に「学びの道しるべ」があり、自分の考えを基に話し合う問いが設けられている。 巻末の「道徳の学びを記録しよう」などの書き込み欄が設けられていて、自分の考えを書くことができるようになっている。 【家庭や地域との連携に関すること】 巻末の「どんな〇年生になりたいか」「そして、未来へ」のページには、保護者記入欄を設け家庭との連携を図ることができるようにしている。 【かわさき教育プランに関連すること】 夢や目標を見つけることを促しており、基本理念「夢や希望を抱いて生きがいのある人生を送るための礎を築く」につながる。	【学習の進め方に関すること】 教材の最初に示されている発問を活用して導入を行い、次に教材を読み、その後で教材の最後に示されている「学びの道しるべ」に示されている発問を活用して授業を進めるようにつくられている。 【内容項目に関すること(指導の重点化を含む)】 重点化している内容項目については、複数の教材を掲載し、繰り返して学習できるようにしている。 【教材の分量に関すること】 1教材1時間での扱いができるように、各学年に35教材が掲載されている。35の教材は、30教材と5つの補助教材で構成されている。 【各教科等との関連に関すること】 各教科、特別活動などとの連携を図りやすい教材の配列をしている。 【記入や記録に関すること】 巻末には、学期ごとに学びを振り返り、記録する「道徳の学びを記録しよう」がある。学習を通して実感や星の数で示す「心のかげやき度」の欄がある。課題や目標を記入するページ『どんな〇年生になりたいか』『そして、未来へ……』が設けられている。 【判型に関すること】 B5判を採用し、教材の内容を精選し全体のページ数を抑えたり、軽量で丈夫な用紙を採用することで重量を軽くしている。	【文字に関すること(大きさ、字間、行間、書体、漢字、仮名遣い等)】 1年生の前半は文字を大きくし、読みやすくしている。明朝体に改良を加えた読みやすいものが使用されている。漢字は、全ての教材で、初出箇所には振り仮名が付けられている。 【挿絵や写真に関すること】 教材内容の理解を助けるために、生徒のイメージを広げる絵や写真を配置している。 【内容項目や主題の示し方】 教材の冒頭に視点が分かるように色別で示している。 【読みやすさ】 漫画や絵本を用いた教材、グラフや地図、写真から考える教材など、「読む」ことの負担を減らし、全員が話し合いに参加できる授業ができるようにしている。 【ユニバーサルデザイン・特別支援教育に関すること】 カラーユニバーサルデザインの専門機関の審査を受け、認証マークを取得している。特別支援教育の専門家の校閲を受けたことを明記している。 【マークやキャラクターに関すること】 発問を示している部分は、同じマークで表されている。 【神奈川県に関連すること】 巻末の「都道府県にゆかりのある人物とその言葉」には、1年で二宮尊徳、2年で小柴昌俊、3年で吉川英治が取りあげられている。2年の「復旧にとどまらず、復興を～後藤新平～」では、関東大震災の横浜の被害があげられている。
38 光村	中学校道徳1 きみが いちばん ひかるとき 中学校道徳2 きみが いちばん ひかるとき 中学校道徳3 きみが いちばん ひかるとき	生徒一人一人が、自ら考え共に学び合うことによって、よりよく生きる力を育むことができるように、3つの基本方針を掲げて編修されている。 ・「考えたい教科書」では、主体的に考えることのできる教材を選定している。生徒の感性に訴えたり、生徒の心を捉えたりする教材を選定している。生徒が多面的・多角的に考えられるよう、多様な教材を取り上げている。 ・「語り合いたくなる教科書」では、自我関与によって自分の気持ちに気づいたり、道徳的な問題についての解決策を考えたりすることが、自分の考えを伝えたい、他者の考えも知りたいという思いにつながる。こうした自己表現や他者との対話への意欲をかき立てる教材を工夫している。 ・「動きだしたくなる教科書」では、自分に自信をもち、他者と力を合わせて行動したくなるようなしなやかな力が盛り込まれている。私たちは、生きていく中で問題を発見したとき、その時々で判断し、行動している。このことを「どうして『道徳』を学ぶんだらう？」でわかりやすく図示し、道徳を学ぶ意義を明確化している。	各学年とも年間を4つのまとまりに分けている。4つのまとまりには、学習指導要領に示されたA～Dの4つの視点が、発達の段階を踏まえ、配置されている。 学習指導要領に示された22の内容項目は、それぞれの学年において網羅されている。	【考え、議論する道徳に関すること】 各教材の最終ページに「学びのテーマ」があり、教材を通して何を学ぶのかをという「めあて」を示している。また、「考える観点」では、「学びのテーマ」に迫るために、3つの考える観点となる発問を設定している。 【発達段階に関すること】 各学年の生徒の発達段階や特性を考慮し、それぞれの学年にふさわしい教材選定となっている。教材は、発達段階や授業時間を考慮したページ数としている。 【いじめ防止に関すること】 全学年を通して、さまざまな内容項目から「いじめ問題」の解決に結び付く教材とコラムが設定されており、「いじめ」をしない、させない、見過ごさない力が系統的に育成されるようにしている。 【現代的な課題に関すること】 情報モラル、生命尊重、食育、健康教育、防災教育、福祉に関する教育、法教育、社会参画に関する教育、伝統文化教育、国際理解教育、キャリア教育、社会の持続可能な発展を掲載している。 【言語活動に関すること】 どの教材にも「私の気づき」という書く場面、話し合うテーマとなる「考える観点」が示されている。 書く活動、話す・聞く活動を重視した教材を収録している。 【家庭や地域との連携に関すること】 家族について描かれた教材から、自分と家族について考えが深められるようになっている。生徒が家庭での話し合いにつなげられるコラムも設けられている。 【かわさき教育プランに関連すること】 教材を4シーズンに区切っているが、シーズン1「自ら考えて」は基本目標「自主・自立」に、シーズン2「仲間とよりよい生活を送るために」は基本目標「共生・協働」につながっている。	【学習の進め方に関すること】 教科書の冒頭には、「本書で学ぶ皆さんへ」のページがあり、教材を通して考えを深めるための学びの構成を示している。 【内容項目に関すること(指導の重点化を含む)】 全ての学年に「生命の尊さ」をテーマとした教材が3つずつ位置付けられている。同じ内容項目を扱う教材は、生徒の生活実態や発達段階に合わせて、内容や分量、世界の広がりなど、学年ごとに傾斜をつけた配当となっている。 【教材の分量に関すること】 1時間での扱いが可能な33教材と、複数時間で扱う想定1教材、補充教材としての2教材の36教材が配されている。 【各教科等との関連に関すること】 教材末のてびきには、「つなげよう」が設けられており、他教科で学習する内容との関連、特別活動との関連、関連する内容の図書の紹介などが示されている。 【記入や記録に関すること】 各教材の最終ページに「私の気づき」という自分の考えについて記入する欄が設けられている。 生徒が自分の変化や成長を振り返ることができる「学びの記録」が巻末にある。 【判型に関すること】 B5判で、軽くて裏写りにくい用紙を採用している。	【文字に関すること(大きさ、字間、行間、書体、漢字、仮名遣い等)】 中学校以上配当の常用漢字について全て振り仮名がある。固有名詞は教材初出箇所には振り仮名を付けている。教科書のためにデザインされた光村明朝体を用いている。 【挿絵や写真に関すること】 教材内容の理解を助け、イメージを広げる絵や写真が配置されている。説明内容を解説するための写真や図・グラフを付けている。 【内容項目や主題の示し方】 1年を4つのシーズンに分けたそれぞれのシーズンの色と道徳の内容の視点、内容項目を各教材の冒頭に示している。 【読みやすさ】 読みやすさを考慮して、熟語の混ぜ書きを極力避けている。読み物教材の他にも、視覚的に興味・関心を喚起する漫画形式などの教材が位置付けられている。 【ユニバーサルデザイン・特別支援教育に関すること】 カラーユニバーサルデザインや特別支援教育の専門家の校閲を受けたことを明記している。 【マークやキャラクターに関すること】 道徳の内容の視点を示す4つのマークがある。 【神奈川県に関連すること】 1年の「栄光の架橋」で横浜市出身のフォークデュオ「ゆず」が取りあげられている。1年の日本の郷土玩具紹介ページで箱根寄木細工が紹介されている。

発行者の番号 略称	書名	編修の基本方針	学習指導要領との関連	内容	構成・分量・装丁	表記・表現
116 日 文	<p>中学道徳 あすを生きる 1 中学道徳 あすを生きる 1道徳ノート 中学道徳 あすを生きる 2 中学道徳 あすを生きる 2道徳ノート 中学道徳 あすを生きる 3 中学道徳 あすを生きる 3道徳ノート</p>	<p>3つの基本方針の基に編修されている。</p> <p>・「主体的な学びを」では、感動・共感・思考を喚起する教材を選定している。学びの見通しをもち成長を実感できるような工夫として、巻頭オリエンテーションのページでは、道徳科で学ぶことや学び方をわかりやすく示したり、別冊「道徳ノート」を活用することで、学習の振り返りができるようにしたりしている。中学校3年間の発達を考慮し、各学年に大テーマを設定している。</p> <p>・「授業に躍動感を」では、「問題解決的な学習」「体験的な学習」の手法に適した教材には、生徒の学びと教師の指導の参考例となるよう、「学習の進め方」を設けている。</p> <p>・「社会を創造する道徳教育を」では、これからの社会を創造していく生徒が、他人ごとではなく自分のこととして考えられるようにするとともに、教育基本法の理念に呼応して、「『いじめ』と向き合う」「安全に生きる」「情報モラル」などの課題について、重点的に教材を選定している。</p>	<p>学習指導要領に示された道徳科の目標の実現を目指し、指導すべき事項として示された内容項目はすべて扱い、さらに重点事項や配慮・留意事項を重視している。</p> <p>巻頭には、学習指導要領に示されている4つの視点とそれぞれに含まれる内容項目が示されている。</p>	<p>【考え、議論する道徳に関すること】 教材の最後のページには、ねらいに迫るための発問例と前向きに自分へ生かすための発問例が掲載されている。道徳ノートにも同じ発問が掲載されており、その発問に対する考えを記入する欄がある。</p> <p>問題解決的な学習や体験的な学習に適した教材には、参考例として「学習の進め方」を設け、授業の展開をイメージできるようにしている。</p> <p>【発達段階に関すること】 中学校3年間の発達段階を考慮し、各学年にテーマを設定している。各学年のテーマは、1年は「新しい自分とであう」、2年は「人との関係を見つめる」、3年は「よりよい人生をひらく」である。</p> <p>【いじめ防止に関すること】 いじめの問題を集中的に考えられるようにユニット化を図っている。いじめを直接題材として扱っている教材と間接的にいじめ防止の心を育てる教材を用意している。</p> <p>【現代的な課題に関すること】 情報モラル、生命尊重、食育、防災教育、福祉に関する教育、社会参画に関する教育、伝統文化教育、国際理解教育、キャリア教育、社会の持続可能な発展を掲載している。</p> <p>【言語活動に関すること】 ペアトークやグループトークの学習形態を示しているページがある。道徳ノートでは、自分の考えや他者から学んだ内容を記入する欄がある。</p> <p>【家庭や地域との連携に関すること】 別冊ノート巻末には学期ごとに道徳で学んだことを記入する欄があり、保護者の記入欄も設けている。巻末に「先生、保護者の方へ」の欄がある。</p> <p>【かわさき教育プランに関連すること】 編修の基本方針の1つに「主体的な学び」がある。これは、かわさき教育プランの基本目標の「自主・自立」につながる。</p>	<p>【学習の進め方に関すること】 巻頭には「道徳科の学び方」のページがあり、「気づく」「考え、議論する、深める」「見つめる、生かす」の順で学習を進めることが示されている。</p> <p>【内容項目に関すること(指導の重点化を含む)】 全学年に共通した重点項目を設定して、重点項目には複数の教材を設定している。</p> <p>【教材の分量に関すること】 各学年とも35の教材があり、学習した内容を理解したり広げたりするコラムがある。</p> <p>【各教科等との関連に関すること】 巻末の内容項目別教材一覧に教科等との関連を示している。</p> <p>【記入や記録に関すること】 別冊の道徳ノートがある。教材一つに対して道徳ノート1ページが割り当てられており、年間を通して記録を残すことができる。教科書の流れと同じように記入できるようになっている。</p> <p>【判型に関すること】 B5判で、通常の上質紙よりも軽くて裏写りの少ない用紙を使用している。</p>	<p>【文字に関すること(大きさ、字間、行間、書体、漢字、仮名遣い等)】 中学校で学ぶ漢字やキーワード、固有名詞には、すべて振り仮名をつけている。書体は、ユニバーサルデザインフォントを使用している。</p> <p>【挿絵や写真に関すること】 学習に取り組む生徒の姿を写真資料として掲載し、学習意欲を喚起しようとしている。</p> <p>【内容項目や主題の示し方】 教材の冒頭に道徳の内容の視点のマークと主題名が示されている。</p> <p>【読みやすさ】 脚注欄、側注欄を活用して、教材の読み取りに必要な補足説明がされている。</p> <p>【ユニバーサルデザイン・特別支援教育に関すること】 カラーユニバーサルデザインの観点から、国立特別支援教育総合研究所客員研究員による校閲のもとに作成されている。</p> <p>【マークやキャラクターに関すること】 4人の中学生のキャラクターを設定している。道徳の内容の視点をマークで示している。</p> <p>【神奈川県に関連すること】 2年のコラム「環境保全と持続可能な社会」では、小田原市が取りあげられている。</p> <p>3年の教材「ワンス・アポン・ア・タイム・イン・ジャパン」では江の島が取りあげられている。</p>
224 学 研	<p>中学生の道徳 明日への扉 1年 中学生の道徳 明日への扉 2年 中学生の道徳 明日への扉 3年</p>	<p>5つの視点で編修されている。</p> <p>・「主体的・対話的で深い学びの実現」では、生徒が主体的に課題を発見し、解決する資質や能力を培うことを重視している。そのために、主題名をあえて教材中に記載しないなど、生徒の問題意識を大切に構成・展開している。</p> <p>・「学びの多様な展開で『考え、議論する道徳』を」では、物事を多面的・多角的に考え、議論することができるように、異なる複数の意見の提示や、関連情報の提供をしている。</p> <p>・「重点テーマは『生命尊重』と『いじめ防止』」では、学習指導要領の改訂の経緯等を踏まえ、いじめ防止対策推進法の観点も取り入れ、重点テーマを設定している。</p> <p>・「1年間の学びのドラマを応援する、ストーリー性のある教科書」では、発達の段階に応じて、学びの過程が質的に高まる構成になっている。</p> <p>・「中学生の『よりよく生きたい』という願いに応える、心の活力を育む教材群」では、生きることの喜びや夢や希望を抱くことができる教材を数多く取り入れている。</p>	<p>学習指導要領の内容を漏れなく扱い、目標を達成できるように、各学年で教材を適切に構成している。</p> <p>学年ごとに、生徒の発達の特質に応じたテーマを設け、該当項目に複数教材を用意するなど、工夫している。</p>	<p>【考え、議論する道徳に関すること】 教材本文より前に主題名を表示しないことで生徒が自ら問題意識をもてるようにしている。教材の最後のページには、問いの例を示している。各教材とあわせて「深めよう」「クローズアップ」のページを設定し、学習した内容から、さらに生徒の考えを深めようとしている。</p> <p>【発達段階に関すること】 学年ごとに、生徒の発達の特質に応じたテーマを設け、該当項目には複数教材を用意している。テーマは、1年「みんなと生きる」、2年「社会に生きる」、3年「世界で生きる」としている。</p> <p>【いじめ防止に関すること】 いじめを直接的なテーマとして扱っている教材と様々な面から他者と共によりよく生きることを考えるような間接的に扱っている教材とがある。特設ページにもいじめ問題に関連した題材を扱ったものがある。</p> <p>【現代的な課題に関すること】 情報モラル、生命尊重、食育、健康教育、消費者教育、防災教育、福祉に関する教育、法教育、社会参画に関する教育、伝統文化教育、国際理解教育、キャリア教育、社会の持続可能な発展を掲載している。</p> <p>【言語活動に関すること】 「深めよう」では、ペアや小グループでの話し合いや役割演技を取り入れた話し合いなどを扱っている。「深めよう」「クローズアップ」では、自分の考えを書く欄がある。</p> <p>【家庭や地域との連携に関すること】 家庭生活や地域社会に関わりのある教材を取り入れている。</p> <p>【かわさき教育プランに関連すること】 編修の基本方針である「未来志向」では、「未来に目標を定め、夢や希望をもって、力強く歩み出す」と示されており、かわさき教育プランの基本理念につながる場所がある。</p>	<p>【学習の進め方に関すること】 各学年の巻頭で、「考えを深める四つのポイント」を示し、道徳の授業への向き合い方を提示している。</p> <p>【内容項目に関すること(指導の重点化を含む)】 「生命尊重」と「いじめ防止」を重点テーマとしている。自らの命および自らの命に関わる他者の命、それらを支える様々な命の尊さについて、思いを寄せることができるようにしている。</p> <p>【教材の分量に関すること】 35の教材があり、加えて特設ページの「深めよう」「クローズアップ」「クローズアッププラス」がある。</p> <p>【各教科等との関連に関すること】 巻末には、他の教科等の学習との関連を示している。</p> <p>【記入や記録に関すること】 巻頭に自分を見つめるページ、巻末に1年間の学びを振り返るページがある。記入欄を設けている教材もある。「深めよう」「クローズアップ」「クローズアッププラス」では、自分の考えを書く欄があるものもある。</p> <p>【判型に関すること】 A4判で、視覚的に捉えやすくゆったりとした紙面構成にしている。</p>	<p>【文字に関すること(大きさ、字間、行間、書体、漢字、仮名遣い等)】 中学校で学習する漢字や固有名詞に振り仮名を付けている。書体は、ユニバーサルフォントを使用している。</p> <p>【挿絵や写真に関すること】 図表や挿絵、写真の配置は、視覚的に捉えやすいよう、本文との関係性に配慮している。</p> <p>【内容項目や主題の示し方】 内容項目や主題名は、教材の本文より前に表示していない。道徳の内容の視点を色で分け、教材番号の下に示している。</p> <p>【読みやすさ】 本文の記述に当たってはできるだけ平易に、理解しやすく表現している。読みやすさを考えた改行など、生徒の読解に支障をきたさないように配慮している。</p> <p>【ユニバーサルデザイン・特別支援教育に関すること】 カラーユニバーサルデザインに対応している。</p> <p>【マークやキャラクターに関すること】 情報モラルのマークと書き込み欄のマークがある。</p> <p>【神奈川県に関連すること】 2年の教材「ヨコスカネイビーパーカー」では横須賀市を活性化させる高校生の提案がその内容となっている。</p> <p>2年のクローズアップで、川崎市にある読売ジャイアンツの寮が紹介されている。2年のクローズアップで、魚付き保安林として真鶴町が写真で紹介されている。</p>

発行者の番号 略称	書名	編修の基本方針	学習指導要領との関連	内容	構成・分量・装丁	表記・表現
232 廣あかつき	中学生の道徳 自分を 見つめる1 中学生の道徳ノート 自 分を見つめる1 中学生の道徳 自分を 考える2 中学生の道徳ノート 自 分を考える2 中学生の道徳 自分を のぼす3 中学生の道徳ノート 自 分をのぼす3	本冊と道徳ノートの2冊の相乗効果 で新時代を生きる生徒の豊かな情操と 道徳心を培うようにしている。 本冊では、各教材ごとに学習の手が かりとなる「考える・話し合う」を配置し、 生徒の主体的な思考、対話的な活動 を促す構成としている。ともに考え、話 し合う協働的な学習により、生徒は、 他者の多様な感じ方や考え方に触れ ることができ、多面的・多角的なもの の見方や考え方へとつながる新たな視 点を得ることができるようにしている。 道徳ノートは、内容項目別に構成す ることで学習内容(道徳的諸価値)を 明確化している。生徒は、教師の指示 に沿って授業の事前・事後、あるいは 授業の導入・終末などに道徳ノート を活用することにより、道徳的諸価値へ の理解が深まり、効果的にねらいに迫 ることができるようにしている。 発達段階に即した教材を用意して いる。問題意識をもち多様に考えるこ とができる教材、自己の体験や経験に 照らして考えることができる教材、人間 らしさが理解できる教材、よりよく生 きる喜びを与えられる教材を厳選して いる。	各学年段階において、相当する 教材や各内容項目に関わる学習 のページを漏れなく取りあげてい る。 様々な教材を通して、道徳性を 構成する諸様相である道徳的な 判断力、心情、実践意欲と態度を バランスよく養うことができるように 配慮している。	【考え、議論する道徳に関すること】 各教材の最後にある「考える・話し合う」には、めあてと発問が示されてい る。また、「考えを広げる・深める」には、教材や内容項目と関連して、生徒 が学習を広げたり深めたりできる内容を、様々な視点から掲載している。 別冊の道徳ノートには、すべての内容項目について発達の段階に応じた 言葉で解説されている。 【発達の段階に関すること】 各学校において指導内容の重点化を図ることができるよう、本冊におけ る各学年の掲載教材のバランス等を考慮しつつ、重点と関連の深い内容 項目に該当する教材を多く取りあげている。 【いじめ防止に関すること】 いじめ防止と関わり深い内容項目「公正、公平、社会正義」で扱う教材 に加え、「友情、信頼」「思いやり、感謝」など、様々な道徳的価値の理解 を通して考えることで、いじめの防止につながるような教材がある。 【現代的な課題に関すること】 情報モラル、生命尊重、食育、健康教育、消費者教育、防災教育、福祉 に関する教育、法教育、社会参画に関する教育、伝統文化教育、国際理 解教育、キャリア教育、社会の持続可能な発展を掲載している。 【言語活動に関すること】 本冊では話し合いを促す「考える・話し合う」があり、別冊ノートでは書くこ と、読み返すことを通して考えられるようにしている。 【家庭や地域との連携に関すること】 別冊の道徳ノートでは、家族との交流を促す記述欄や地域の人や身近 な人たちに聞いたことなどを書き込むページが設けられている。 【かわさき教育プランに関連すること】 編修の基本方針に、ともに考え、話し合う協働的な学習が示されており、 このことはかわさき教育プランの基本目標の「共生・協働」につながる。	【学習の進め方に関すること】 巻頭にある「自分を見つめよう」では、道徳の時間の考え方、話し合い からの学びの深まり、自己の考えを深めることの大切さなどを説明して いる。 【内容項目に関すること(指導の重点化を含む)】 「自主、自律、自由と責任」「思いやり、感謝」「生命の尊さ」「よりよく生 きる喜び」の4項目を重点とし、それぞれについて各学年、3教材ずつ 配置している。 【教材の分量に関すること】 各学年とも年間の授業時数に対応した35本の教材がある。 【各教科等との関連に関すること】 別冊には、様々な教育活動と連携を図りながら活用できるページがあ る。 【記入や記録に関すること】 別冊の道徳ノートが用意されており、内容項目に合わせた記録を付け ることができるようになっている。生徒が今の自分のことを記入すること ができる「フェイスシート」がある。「話し合い活動の記録」「学習の記録」 「心に残っている授業の記録」の欄がある。学習の振り返りができる自己 評価シートが巻末の折り込みにある。 【判型に関すること】 本冊、別冊ともにAB判を採用し、紙面にゆとりをもたせ、圧迫感のな い構成にしている。	【文字に関すること(大きさ、字間、行間、書体、漢字、仮 名遣い等)】 学年段階を考慮して、1年は本文文字サイズを大きくし ている。未習の漢字には、初出のみならず、すべてに振 り仮名を配している。固有名詞は教材初出のみに振り仮 名を付している。 【挿絵や写真に関すること】 白を基調とした紙面にイラストを配置し、ワイド判のよ さを生かしている。別冊の道徳ノートは生徒の学習意欲を 喚起する写真などを掲載している。 【内容項目や主題の示し方】 教材の冒頭に、道徳の内容の視点を色と玉の数で示 している。 【読みやすさ】 学習上説明を要する文言や固有名詞などに、必要に 応じて脚注を付している。 【ユニバーサルデザイン・特別支援教育に関すること】 カラーユニバーサルデザインに関しては、専門の第三 者機関の検証を経て、UCD認証マークの取得を予定し ている。 【マークやキャラクターに関すること】 内容項目を色と玉の数で示している。 【神奈川県に関連すること】 該当教材なし。
233 日科	道徳 中学校1 生き方 から学ぶ 道徳 中学校2 生き方 を見つめる 道徳 中学校3 生き方 を創造する	3つの基本方針で編集されている。 ・「道徳的諸価値の理解を基に生み出 される価値観の多様性」では、道徳的 諸価値の理解を基に自己との関わり で多面的・多角的に捉え、人間とし ての生き方についての見方・考え方を深 められるようにしている。そのため、「身 近な事例から考える」「多面的・多角 的にとらえる教材」「自己の生き方を見 つめ直す教材」に視点を置いている。 ・「道徳性育成に向かう『主体的・対話 的で深い学び』の授業の実現」では、 「考え、議論する道徳」の授業過程が 構築され、道徳性を支える資質・能力 を育成することとしている。そのため、 『「考え、議論する」道徳授業ができる 教材』『いじめを許さない態度を育て る教材』『情報モラルに関する教材』に視 点を置いている。 ・「道徳教育の系統性と体系化を支 える教材」では、各学年の発達段階を 踏まえた系統性と、各教科等の学習 内容との関連を考慮し道徳教育の体 系化を実現させることとしている。そ のため「学年間に繋がりがある教材」「他 教科との繋がりを考慮した教材」に視 点を置いている。	学習指導要領に即した内容構 成になっており、答えが1つではな い道徳的な課題を「考え、議論す る」授業ができる工夫をしている。 学習指導要領の内容項目順に 教材を配置しており、すべての内 容項目を取りあげている。	【考え、議論する道徳に関すること】 教材の最後に「考え、話し合ってみよう そして、深めよう」があり、発問が 2〜3個掲載されている。教材によっては、最後の部分を示さないことで、 生徒に考えさせるようにしている。 【発達の段階に関すること】 学年間のつながりを重視した教材を採用している。価値の多様性をしっ かりと受け入れる寛容な心を育む項目は、1年「2つの足跡」から、2年「あ なたが見えているもの」、3年「礼儀はなぜ必要なのか」などワーク方式 を取り入れ、思考と議論を年単位で積み重ねられるようにしている。 【いじめ防止に関すること】 直接的ないじめに関する内容の教材に加えて、「いじめを許さない心」の 根底には、生命を尊ぶ態度が不可欠と捉え、生命尊重の教材を用意して いる。 【現代的な課題に関すること】 情報モラル、生命尊重、食育、福祉に関する教育、法教育、社会参画に 関する教育、伝統文化教育、国際理解教育、キャリア教育、社会の持続 可能な発展を掲載している。 【言語活動に関すること】 教科書の中にワークシート形式の教材があり、書く活動と共に、話す活 動を行うようにしている。 【家庭や地域との連携に関すること】 地域や家族とのかかわりに関する教材でつながりをもたせようとしてい る。身近な教材では、家庭や地域と連携しやすい。 【かわさき教育プランに関連すること】 編修の基本方針には、「道徳的価値の理解を基に生み出される価値観 の多様性」がある。これは、かわさき教育プランの基本目標の「共生・協 働」にある「個人や社会の多様性を尊重すること」につながる。	【学習の進め方に関すること】 巻頭の「道徳科って何を学ぶの」では、道徳の1時間の授業の流れを 図式化して示している。教科書の使い方を示しているページもある。 【内容項目に関すること(指導の重点化を含む)】 3学年共通して複数の教材を取りあげている内容項目は、「友情、信 頼」「遵法精神、公德心」「公正、公平、社会正義」「社会参画、公共 の精神」「生命の尊さ」「よりよく生きる喜び」である。 【教材の分量に関すること】 37の教材とコラム等で構成されている。教材が37あるので、教材を選 びながら年間計画を立てることができる。 【各教科等との関連に関すること】 科学技術の向上や環境問題・世界と日本の繋がりなど、他教科とのか かわりを感じられる教材を取りあげている。 【記入や記録に関すること】 教科書の巻頭には今の自分を見つめるためのメモ、巻末には内容項 目についての自己評価や道徳の時間の振り返りを記入するページがあ る。 ワークシート形式の教材がある。 【判型に関すること】 B5判を採用し、読み物教材は全て上下に同じ幅のスペースを設けて いる。	【文字に関すること(大きさ、字間、行間、書体、漢字、仮 名遣い等)】 教材ごとに、一度読み仮名を振った漢字に対しては2 度目以降は振らないようにしている。 【挿絵や写真に関すること】 1ページすべてが、挿絵や写真を掲載している教材が ある。写真や図を使って考える教材がある。 【内容項目や主題の示し方】 内容項目や主題名は、教材の本文より前に表示して いない。道徳の内容の視点を色で分けて示している。 【読みやすさ】 同じ書式で構成され、本文と注釈の間にはラインがあ り、読みやすくしている。 【ユニバーサルデザイン・特別支援教育に関すること】 巻末等にユニバーサルデザイン等については示され ていない。 【マークやキャラクターに関すること】 話し合いの問いに関してはすべて共通のマークが 入っている。 道徳の内容の視点ごとに色分けをしている。 【神奈川県に関連すること】 該当教材なし。